

平成28年9月8日

生駒市議会議長 中 谷 尚 敬 様

市民文教委員会委員長 福 中 眞 美

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、生駒市議会会議規則第107条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 平成28年8月1日(月)
- 2 派遣場所 生駒学童1、生駒学童2、桜ヶ丘学童1、桜ヶ丘学童2
- 3 事 件 安心、安全な放課後の児童の生活及び活動の保障について
- 4 派遣委員 福中眞美、成田智樹、吉波伸治、塩見牧子、吉村善明、改正大祐
- 5 概 要 別紙のとおり

市民文教委員会視察報告書

視察先	生駒学童①、生駒学童②、桜ヶ丘学童①、桜ヶ丘学童②
施策等の名称	安心、安全な放課後の児童の生活及び活動の保障について（テーマを定めた調査）
視察の目的	<p>入所児童数の増加により、保護者から分割の要望が出ている学童保育所について、大規模化の現状を把握する。</p> 
施策等の概要	<p>本市では、共働き家庭や一人親家庭の子育てを支援するため、児童の放課後の安全を確保し、生活の場を提供することを目的に学童保育が実施されている。</p> <p>学童保育事業は、昭和58年以降、生駒市学童保育運営協議会（市、保護者、指導員の三者運営）が市からの助成金、保護者負担金により運営している。市は人事、会計管理を行い、保護者は保育料の徴収を行い、指導員は保育を行っている。</p> <p>市内12小学校に23学童保育施設があり、単独施設での運営が8学童、小学校の空き教室利用での運営が15学童となっている。</p> <p>開所時間は、平日で下校時から19時(平成28年度は19時30分までモデル実施)、三期休業時で8時から19時(平成28年度は19時30分までモデル実施)である。</p> <p>なお、本市では、入所児童数が平成24年度の897人から平成28年度の1355人に急激に上昇し、施設における児童一人あたりの面積が小さくなるなど過密になっていることなどから、積極的に分割に取り組んでいる。</p> <p>○生駒①（児童数：100人）及び②（児童数：67人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き教室を改修、改造して使用している。1日の時間割に基づき運営。スポットでイベントを入れている。①②は隣接しているが、別々に運営している。①と②の施設間に静かに勉強したい児童等のための教室がある。



○桜ヶ丘②（児童数：69人）

- ・単独の2階建て建物を使用している。午後の自由時間に訪問したが、1階では指導員と遊ぶなどして自由に過ごし、2階ではビデオを上映していた。また、児童から「部屋がキツキツや」と言われた。



○桜ヶ丘①（児童数：72人）

- ・単独の平屋建物を使用。イベント「絵手紙講座」を行っていた。



委員の意見等

○夏休みで通常時より利用者が少ないとのことで、極端に狭く感じることはないが、生駒に比べ、桜ヶ丘の2施設の方が若干窮屈に見える。

（空き教室を使っている生駒の方が天井が高いことが一因と思われる）

○夏休みということで、出席率は普段よりは低めということであるが、それでも部屋には一杯の児童が遊んでいる。普段は出席率平均75%～80%であるので、これ以上の児童が部屋にいるとなると手狭なのは理解できる。施設や敷地の諸事情があるが、2階建て、

空き教室を使うと指導員の人数、目が行き届きにくくなる可能性がある。また、児童の「部屋がきつきつや」、「2階建て建ててほしい」などの発言から、児童も人が一杯で狭いというのは理解していると思われ、早急な対応が必要と思われる。

- 生駒学童について、「動」の部屋と「静」の部屋の区分がない（空き教室を改修しているため「廊下」でつながっており完全に遮断されていない）に等しいため、落ち着いて何かに取り組みたい児童や自閉症などの障害を持つ児童には居づらさを感じるかもしれないし、集団の中にいることに疲れたとき休める場が確保できていない。

雨の日など、外遊びできず全員が保育室にいるときは「動」の部屋の広さがまったく足りなくなる。

- 桜ヶ丘学童について、両学童保育とも施設面積が小さい。学童②は、2階にも保育室があり、「静」の部屋と「動」の部屋が区分されていることは望ましいが、指導員の目が行き届きにくい面もある。部屋が小さいため、机に向かって座っていても、児童の背中どうしが触れ合わんばかりである。

集団から離れたい児童の居場所がない状態である。

- 桜ヶ丘学童では、学校の校舎の改修工事で、グラウンドにも工事車両が入り、外遊びが困難に思える。また、工事がなかったとしても雨の日や夏季休暇中の猛暑日は外遊びも制限される。児童のストレスがトラブルにつながることもあり、室内でも体を動かせるスペースの確保が必要である。

学校敷地の道路を隔てて向かい側に市有地があるが、住宅地に囲まれており、第3学童用地として活用するのは難しい。

学童②隣接地（玄関側）を活用して増築対応できないか。

- 単なる預かり事業ではなく、保育・教育的機能の高い事業である。そのため、適正な人数ごとの分割が必要であり、指導員への期待も小さくはない。また、施設の児童1人当たりの有効面積が可能な限り大きくなることに意を用いたい。

- 生駒学童は、特に学童①の在籍児童数が多いため、特別教室の提供を学校から受けているが、学童②に隣接しており、指導員の目が届きにくいことと保育室として整備されていないことからあまり活用されていない。

- 生駒学童は校区内でマンション建設が複数あり、今後も在籍児童数の増加が見込まれ、喫緊の対応が必要である。学校の空き教室など

を最大限に活用し、第3学童を設置することが求められる。

○桜ヶ丘学童②を視察したときは昼食直後で、約半数の児童は「お腹の休憩」の時間帯で、2階でビデオ鑑賞をしていた。また、学童①も一斉保育で作画の取り組みをしていたため、比較的静かではあったが、自由遊びの時間は「喧噪」が容易に予想される。

○夏休み中であり、児童は概ねみんな元気に過ごしているように感じた。

○通常期は難しいのかもしれないが、三期休業時には学校単位で共同のイベントの開催等、効率的な運営も検討できるのではないか。

○指導員のスキルに格差があるとの保護者からの意見を聞く。指導員の管理、監督及びスキルアップについての方策、一般の保護者との協力、連携等、具体的にどのように行われているのか他、ソフト面の確認・把握も必要と考える。

○視察に行く前は、学童保育の環境に対してあまり良い印象はもっていなかったが、子供たちがのびのび生活しており、指導者の方が献身的な指導を心がけている。また、施設の大きさ、数には課題があるように感じるが、設備面で充実しており、保護者が安心できる雰囲気があった。

○生駒学童について、たいへん騒々しく、指導員の伝達が伝わりにくい。指導員は全員への伝達時にはマイクを使用しているが、そばで会話していても大声で話さなければ聞こえにくい状態である。

○生駒学童の場合、高学年の在籍率が高いことが大規模化にもつながっているが、これは保育の質に対する児童や保護者の満足度が高いことの証左でもある。異年齢交流が学童保育の良さでもあり、指導員に代わって低学年の面倒を見る高学年もいる。高学年の在籍は、むしろ大規模化による指導員の負担軽減にプラスになっている面があることを踏まえ、今後も最終学年まで在籍したいと思える保育の質を維持していくべきと考える。